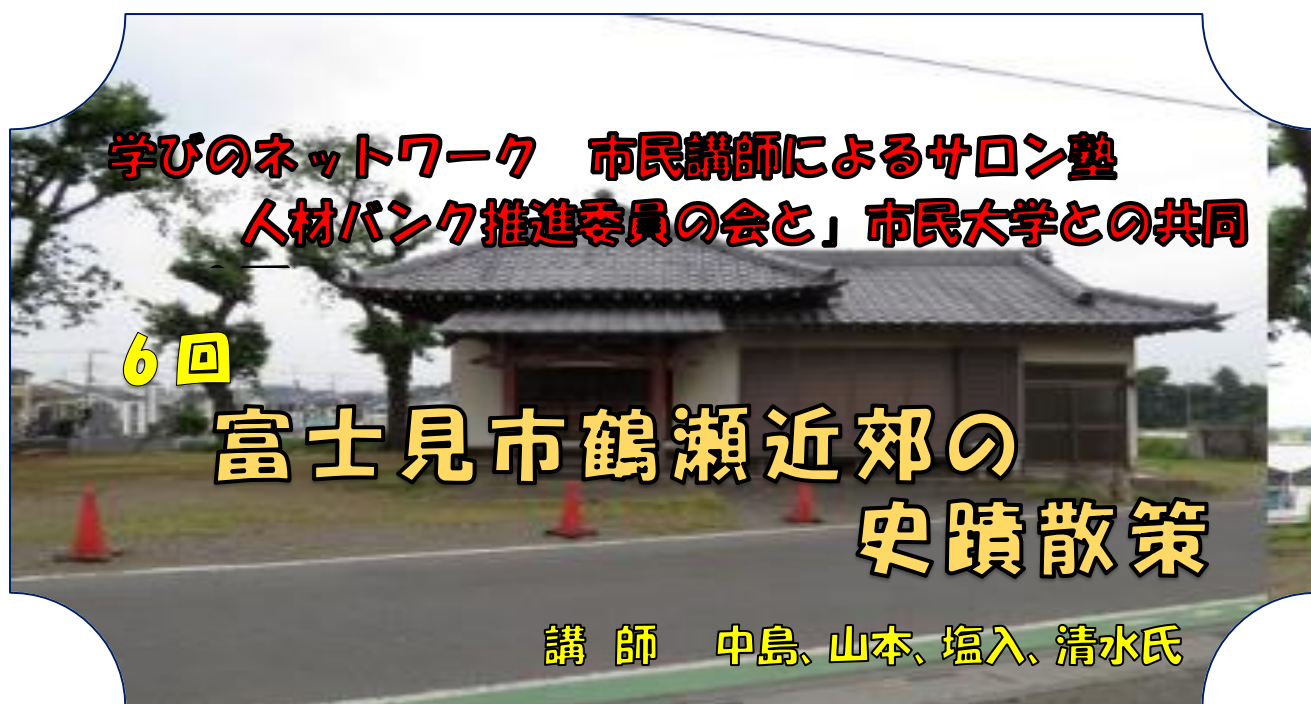




日差しが暑いぐらいの好天に恵まれ上着を脱いでの散策になりました。
ふるさと探訪会の中島会長をはじめ山本、塩入、清水さんがサポート、史蹟説明をしてもらいました。

日時 10月31日（月）13：30～16：00

集合 鶴瀬公民館 いきいき活動室

参加者 14名、市民大学理事3名、ふるさと探訪会4名 合計21名

講師 中島、山本、塩入、清水氏

いきいき活動室に集合、はじめに人材バンク野崎さんよりご紹介、次いでふるさと探訪会の中島会長よりご挨拶、諸注意がありました。

公民館前で集合写真を撮っていよいよ出発。





コース

- ① 戦争中は高射砲や陸軍があった陣地を通り、貝戸の森公園で山本さんより説明。

市内は7沢、8寺、5戸があり、貝戸も5戸の1つ、他に渡戸、折戸など。暗渠になった権平川左側の住宅街に、高層マンション建設反対ののぼり旗が並んでいた。完成すると日照が遮られ風景が一変するだろう。

東上線下に深谷のレンガで造られたトンネルの説明があった。堅牢なイギリス式レンガ積み。

赤飯塚…昔、オトウカ（狼のこと）が出て困りはて、塚に赤飯を供えたと出てこなくなった伝承がある。上沢の浄水塔が見える、線路の反対側畑地。

- ② 上沢薬師堂

塩入さんが説明。大曾根佐太郎氏の守り本尊の薬師如来が祀られ、境内の左側に西国三三カ所、坂東三三カ所、秩父三四カ所めぐりの百観音を安置。観音像は一体毎に特徴があり見飽きない。多くの信徒が訪れたそうです。

③ 関口不動堂

中島さん説明。事前に連絡してくださり、ここをお守りされている方が扉を開けてくださっていた。

お堂前に約3メートル不動剣が立ち、反対側に「カラス天狗」、阿弥陀如来立像の石仏が祀られていた。また堂内には、天井に届くほどの不動明王像が安置。有名な仏師が彫られたそうで、お名前は聞けませんでした。

④ 寛政の庚申塔（渡戸の庚申塔） しつけ坂・江戸道…裏街道の道しるべ

住宅街の一角にコンクリートに囲まれていた。塩入さんから説明と以前、木々の前に立っていた写真を見せていただく。写真の風情のある雰囲気が壊され残念。足元に3猿があるのは「見ざる、聞かざる、言わざる」が旅の成功の秘訣という意味です。

しつけの坂…渡戸地区で初めての榊原家水車屋があり、この地に南畑から田を仕付（田植え）に往復するときどうしても通らなければならなかったの、いつしか「しつけの坂」「新水車（しんぐるま）の坂」と呼ばれた。



⑤ 医者坊主の墓

清水さんの説明で、渡戸2丁目の共同墓地内に、元禄11年（1698）に亡くなった先達星野平太夫の墓があります。修験者、山伏で薬草、薬石に詳しく「諸病平癒」の祈願を行ったので医者坊主といわれていた。庶民のよりどころになり、板橋からお参りに来た人がいた。死後、願い事があれば墓前に酒を備えれば聞きけると言い残した。また、祈ればぽっくり死ねるという信仰になった。

⑥ 渡戸観音堂

観音堂の創立は不詳。文化7年（1825）に作られた須弥壇があり、本尊は寛文4年（1664）と刻まれた像は市内最古といわれている。

境内にある馬頭観音は元禄3年（1690）に造られ馬の姿が浮彫になっており入間東部では唯一といわれている。

また庚申塔が木の根方にあり、頭に薄れた蛇、足元は3猿の浮彫がある。

⑦ 雷電神社（三本木の雷電尊）…雷電堂

寛文年間（1661～72）頃、三本の杉の大木があったところを「三本木」と呼んでいた。そのうちの一本に落雷があり焼失した。現在の渡戸集会場あたり、近くに米屋があり屋号を「雷電堂」という。

渡戸の人たちは雷電の怒りを恐れて栃木県の雷電神社を分祀し「雷電尊」の石祠（せきし）を安置した。神社境内にあった阿弥陀仏如来立像の石仏は先ほど見た関口不動堂に移された。明治41年（1908）上鶴馬（折戸）の氷川神社に合祀された。

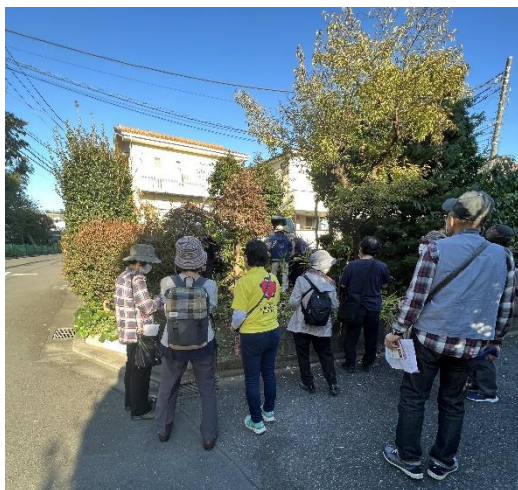


⑧ 「この風の音を聞かないか」 鶴瀬公民館ホール・ロビー）

山本さんから説明。阿伊染（あいぜん）徳美氏の寄贈の油絵。南畑の田園風景に渋谷定輔、黎子氏が描かれており、今年は小作争議から100年を迎える。

ここまで参加者はひとりも落伍せず、約5キロのコースを巡りホールで散会した。

後日、中嶋さんより百か所の札所・寺名と百観音名の表と追加の説明をお送りいただきました。



報告 加藤久美子